
デジタルサイネージ提案フロー

ーこれから導入を検討している方へー

FIRST

そもそもデジタルサイネージとは・・・

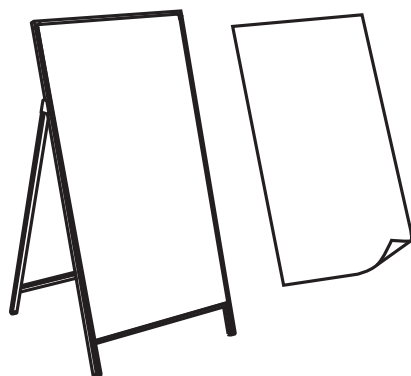
「 電子的な表示装置を用いて情報発信（収集）するもの」

駅コンコース、店舗、大型商業施設、オフィスビルなどで使われています。

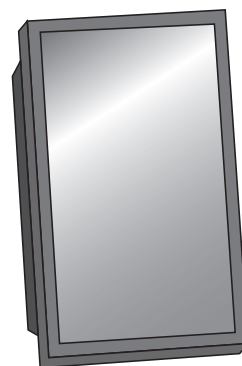
近年、安価で操作が簡単なものが増えて、導入のハードルが下がり、

用途や設置環境により看板の代わりとしても考えられます。

看板（ポスター）



ディスプレイ



※縦向き設置、耐久性、
安定供給等の理由から
業務用ディスプレイを
お勧めします。

導入には **ハードウェア + コンテンツ + 設置・メンテナンス**が必要

さらに導入後もコンテンツ更新、メンテナンスなど**継続的な運用**が必要です

ハードウェア

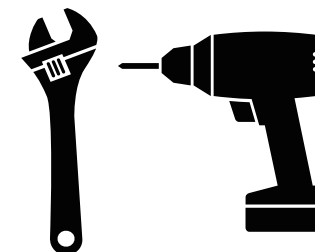
スタンド+ディスプレイ+再生機器



コンテンツ



設置・メンテナンス



継続的な運用

デジタルサイネージ導入にあたり、4つのポイントを考慮することで最適な提案ができます。
最も大切なのは「目的・用途」です。様々なことができるサイネージだからこそ、
目的・用途を決めることが重要です。また電子機器ならではの制限も注意が必要です。

①目的・用途

広告・販促 案内サイン 演出・ディスプレイ

②設置環境

屋内/外 日射 設置方法 防犯など

③設置方法

コンテンツ作成 更新作業 メンテナンス

④サイズ

液晶ディスプレイサイズ（インチ）
設置環境に応じたサイズ ポスターサイズ比較

目的・用途は大きく分けて3つあり、**目的・用途を明確にする**ことで最適な機器や運用方法を選定できます。

広告・販促

使用シーン例

駅の柱広告、ビルの大型ビジョン、イベント時のCM動画放映、
店頭の子看板、電車内広告、マンション内広告など

案内サイン

使用シーン例

フロアマップ、店舗の品検索、ホテルのイベント予定表、
オフィスのウェルカムボード、ニュース・災害情報など

演出 ディスプレイ

使用シーン例

店舗内ブランドイメージ動画、企業エントランスサイン、
キッズエリアサイネージ、プロジェクションマッピングなど

導入事例はこちら <http://www.comabo.jp/index.html>

デジタルサイネージは電子機器なので、**設置環境の条件が看板よりもシビア**です。
想定される設置環境を予め確認したうえで、ハードウェアを選定する必要があります。
※弊社では主に液晶ディスプレイを使ったデジタルサイネージを提案しています。

屋内・屋外

屋内と屋外ではっきりと機器が異なります。
※弊社では主に屋内用を取り扱っております。

日射・明るさ

液晶ディスプレイの明るさは太陽光よりも弱く
明るい場所で使う場合は特別な機器が必要です。

設置方法

自立、壁掛け、天吊り、床アンカー固定など
デジタルサイネージは重量があるため、安全に
するためには設置方法の検討が必要です。

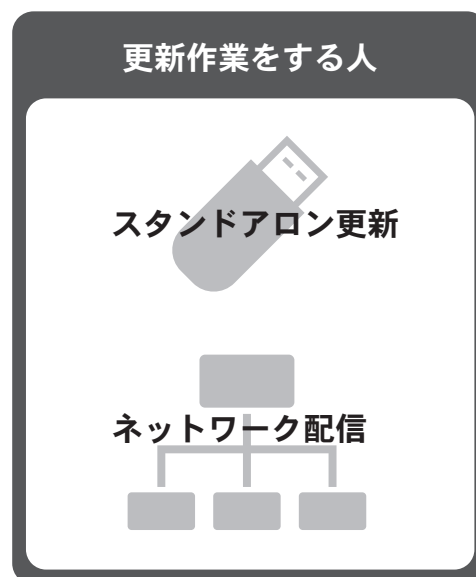
人通り・防犯など

機器は高価です。破損、盗難、イタズラなどの
リスクに備えて、対策を検討しましょう。

設置条件に合わせたカスタマイズ事例はこちら

<http://www.comabo.jp/index.html>

デジタルサイネージは、導入後もコンテンツ更新や保守・メンテナンスが必要です。
導入前に以下3点を検討し、できるだけ手間がかからず、**無理のない運用**をおすすめします。



※スタンドアロン更新とは
サイネージ本体のUSBメモリやSDカード等を
交換することでコンテンツを更新する方法



困った時のQ & Aはこちら

<http://www.comabo.jp/comabofaq.html>

液晶ディスプレイの大きさはインチ数で表現されます。（インチ数＝表示面の対角寸法）

現在弊社で取扱いの多いものは32～55インチです。参考までにポスター寸法と比較をしました。

液晶ディスプレイは縦横比が限定され、ポスターサイズ（A1、B1等）長細い比率になっています。

什器の寸法と合わせて、**設置環境と用途に応じたインチ数**を選択する必要があります。

※ディスプレイメーカーにより、32-40-50インチなどラインナップが異なります。

※寸法は機種により多少誤差があります。

